

もっと元気にセルフメディケーション！

くすい

薬

を知ろう！



高知県立図書館
健康応援キャラクター
“トメイト”

りこピン



りこピン

KOCHI PREFECTURAL LIBRARY 2009. 6

このリストは、当館に現在所蔵する本をご紹介しますもので、特定の治療や薬の使用を推奨するものではありません。
医療関係の情報は速い速度で変わっていきますのでご注意ください。
症状や治療の判断等につきましては、医療機関にご相談ください。



2009年6月1日より改正薬事法が施行され、薬剤師がないお店でも購入できる薬の種類が増えました。自分の健康を自分で守る「セルフメディケーション」に役立てていただけるよう、当館所蔵の関連本をご紹介します。また、前半部分では、知っておくと便利な薬に関する知識を、簡単に解説しています。

●目次

★解説部分★(※作成に使用した参考資料は8ページに記載しています)

- ・薬の種類.....2
- ・OTC薬の販売方法が変わりました ~薬事法改正~ ..3
- ・薬を上手に使うには.....4
- ・薬の副作用と相互作用.....5
- ・サプリメントについて.....6
- ・インターネットで調べる.....7-8

★ブックリスト部分★(全46冊)

- ・その1 薬の基礎知識・薬理学(15冊).....9-12
- ・その2 各薬の知識(9冊).....13-15
- ・その3 サプリメント(5冊).....16-17
- ・その4 医薬品業界(6冊).....18-19
- ・その5 創薬論・薬育(3冊).....20
- ・その6 薬の事典(8冊).....21-24

●ブックリストの見方

※本の特徴や特記事項をまとめました。

その2 各薬の知識

	書名	著者/当時の所属	出版社	出版年	請求番号	主な対象	本の特徴/概要
1	ステロイド薬がわかる本 病気別	宮坂信之/編著 東京医科歯科大学大学院医 歯学総合研究科膠原病・リウ マチ内科学分野教授	法研	2008	492.3	医療関係 者・一般	<ul style="list-style-type: none"> ・3章構成:「ステロイド薬について知りましょう(基礎知識)」「ステロイド薬の副作用」「ステロイド薬を使う主な病気」/各章末にQ&Aがある ・3章は病気ごとに症状等の説明・治療・ステロイド薬の使い方を記載 第一線で活躍している専門医が、ステロイド薬を使う病気別に最新情報を詳しくわかりやすく解説。これからステロイド薬を使おうと思っている人、すでに使っている人の不安を解消する1冊。

※著者の当時の所属

※その本の内容が、主に対象とされていると考えられる方

※日販MARCの内容データ部分を転載。それ以外の場合は、本から直接内容について引用し、引用箇所を()で示しました。





薬の種類

私たちの周りには、様々な薬があふれています。それらの薬が、大きく2つに分類できることはご存知ですか？
 1つは、薬局や薬店で購入できる「**OTC薬（一般用医薬品）**」、
 もう1つは、医師の処方せんが必要な「**医療用医薬品**」です。
 医療用医薬品には、長い研究期間を経て開発・承認される「**新薬（先発医薬品）**」と、
 特許切れになった医薬品と同じ有効成分の薬を他社が製造・販売する「**ジェネリック医薬品（後発医薬品）**」があります。

※スイッチ
OTC薬とは



OTC薬（一般用医薬品、大衆薬、市販薬）

OTCとは、「Over The Counter」の略。
 つまり、薬局のカウンター越しに買える薬のことです。
 医師の処方せんなしに、
 個々人が自由な判断で購入・使用できます。

医療用医薬品

病院などで医師の診察を受けた後、
 薬局で受けとる薬です。
 医師が患者さん一人ひとりの状態を判断して
 処方せんを作り、それをもとに
 薬局の薬剤師が調剤します。

もともと医療用のみに認められていた成分の中から
 安全性や使用実績で問題ないと判断されたものをOTC薬に転用（スイッチ）した薬です。
 OTC薬は全額自己負担であり医療費の抑制につながることや、
 自分の健康を自ら守る「セルフメディケーション」の普及を狙う目的から、
 近年品目数が増加しています。

新薬（先発医薬品）

「基礎研究期間」「非臨床試験期間」「臨床試験期間」
 という、最長で15年におよぶ研究期間を経て、
 新しい成分の有効性・安全性が確認され、国の承認を
 受けると、「新薬」として販売されます。
 開発した企業には、発売後も「再審査期間」として、
 8～10年間、有効性・安全性の確認をすることが
 義務付けられています。



特許権存続期間満了（出願から最長25年）

ジェネリック医薬品（後発医薬品）

「再審査期間」が終了し、
 かつ新薬の特許権存続期間が満了すると、
 新薬と同じ有効成分の薬を、
 他の製薬会社が製造・販売できるようになります。



OTC薬の販売方法が変わりました ～薬事法改正～

2009年6月1日、改正薬事法が施行されました。46年ぶりの大改正となります。
 これにより規制が緩和され、「登録販売者」（※医薬品販売の実務経験などの要件を満たし、都道府県実施の試験に合格した者）がいれば、薬剤師のいないお店（たとえばスーパーやコンビニ）でも、OTC薬の大半が購入できるようになりました。
 正しい知識を身につけ、上手に薬を選び、使いこなす必要があります。
 自分の健康を自分で守る「セルフメディケーション」の時代が、日本にもすぐそこまでやっています。

OTC薬は、効き目と副作用のリスクから3種類に分類して販売されるようになりました。
 区分表示別に、お店に並べられています。

医薬品の リスク分類	第1類医薬品： 特にリスクが高いもの	第2類医薬品： リスクが比較的高いもの	第3類医薬品： リスクが比較的低いもの
特徴	一般用医薬品としての使用経験が 少ないなど、安全性上、特に注意を 要する成分を含む。	まれに入院相当以上の 健康被害が生じる可能性 がある成分を含む。	日常生活に支障を来たす程度では ないが、身体の変調・不調がおこる おそれがある成分を含む。
薬の例	H ₂ ブロッカーを含む胃薬、 水虫薬(有効成分ラノコナゾールなど)、 一部の毛髪用薬 など	主なかぜ薬、解熱鎮痛薬、 胃腸鎮痛けい薬 など	ビタミンB・C含有保健薬、主な整腸 薬、消化薬 など
販売できる 場所	薬剤師がいる店舗 インターネット販売不可	薬剤師または登録販売者がいる店舗 インターネット販売不可	薬剤師または登録販売者がいる店舗 インターネット販売が可



薬を上手に使うには

薬は、**用法、用量、注意事項を守り**、飲み忘れないようにするなど、正しい使い方を守らないといけません。選び方や飲み方に困ったとき、体に変化があるときなどは、すぐに**医師や薬剤師に相談**しましょう。受信歴や他に飲んでいる薬の有無・アレルギー・副作用・特異体質など、自分のことについて、薬だけでなく、サプリメントや食べ物のことも合わせて、医師や薬剤師によく伝えるのがポイントです。

●薬を飲むタイミングと保存の仕方

食前	食事の30分前 ※胃の中にもものが入っていると吸収が妨げられる薬や、食欲増進剤など。	食間	食事と食事の間 ※食べ物の成分の影響で吸収が悪くなる薬や、空腹時のほうが吸収のよい漢方薬。
食直前	食事の直前 ※食後の血糖値を抑える薬や、食べ物と混ざって効き目を発揮する薬。	就寝前	寝る直前か、30分～1時間前 ※睡眠薬、翌朝の便意を促す便秘薬など。
食直後	食事の直後	時間毎	食事に関係なく一定の間隔で
食後	食後の30分以内 ※多くの経口薬がこれに該当。胃に食べ物が少し残っている状態で、薬が入っても少ない刺激で吸収される。	頓服	必要に応じて

湿気・日光・高温を避け、子供の手の届かない場所に、薬以外のものとは分けて置きましょう。
外用薬（ぬり薬など）と内服薬（飲み薬）は別々にしておきましょう。
他の容器に入れ替えてはいけません。古い薬は捨てるようにしましょう。

Q. 飲み忘れたら？

一度に2回分を飲んでではダメ！

飲み忘れにすぐ気づいたら服用し、時間がたちすぎて次の服用時間に近いときは、次回から服用します。例外もあるので、医師や薬剤師に相談を！勝手に量を減らしたり、やめたりしてもいけません。

Q. 水以外のもので飲んでいいの？

一般的な飲み薬は、コップ1杯程度（約200cc）の水またはぬるま湯で飲むことを前提に作られています。ジュースや牛乳などで飲むと、薬の作用や効きはじめる時間などが変わってしまいます。特に**アルコールとは絶対に一緒に飲んではいけません。**





薬の副作用と相互作用

薬には、治療目的とする作用（**主作用**）の一方、本来の治療目的ではない作用（**副作用**）が現れることがあります。薬を飲んで異常を感じたときは、ただちに医師や薬剤師に状態を知らせましょう。

また、2種類以上の薬を使用したとき、1種類では起こらない作用が現れたり、効果が強まったり、逆に効果を打ち消しあったりすることがあります。これを、**相互作用**といい、十分な注意が必要です。

薬の添付文書には、相互作用について、「**併用禁忌**」（併用してはいけない）、「**併用注意**」（併用する場合は注意が必要）が記載されています。

薬どうしだけでなく、**薬と食べ物の間にも相互作用が起こることがある**ので注意しましょう。

● 代表的な薬と食べ物の相互作用

グレープフルーツ	グレープフルーツに含まれている苦味の成分は、薬の代謝を阻害して血中濃度を増加させたり、薬の排泄を阻害したりする。特に、カルシウム拮抗薬をグレープフルーツジュースで飲むと、薬の作用が増強されたり、頭痛やふらつき、心拍数の増加などが現れることがある。夏みかんや文旦、甘夏などでも同じような作用が起こる。
牛乳	牛乳に豊富に含まれるタンパク質・カルシウム・脂質が薬と相互作用を起こす。ニューキノロン系抗菌薬やテトラサイクリン系抗菌薬を牛乳と一緒に飲むと、薬とカルシウムが反応して吸収されにくくなる。
納豆	納豆は腸内でビタミンKを作り出す。抗凝固薬ワルファリンはビタミンKの働きを抑制して血液を凝固しにくくする。したがってワルファリンを服用している人は原則として納豆は食べないようにする。ビタミンKを多く含む、クロレラや青汁、ほうれん草、ブロッコリーなども、食べる量を主治医や薬剤師に相談した方がよい。
ハーブ	セントジョーンズワート(西洋オトギリ草)は薬効を弱めることがある。イチヨウ葉とアスピリンや、高麗人参と抗うつ薬フェネルジンの間などにも相互作用の報告がある。他にもハーブと薬の相互作用は問題になっている。
アルコール	薬とアルコールを一緒に飲むと、薬の作用が増強されたり、逆に減弱されたりすることがある。例えば抗不安薬や睡眠薬とアルコールを併用すると、中枢神経への作用が増強される。また、鎮痛解熱薬のアセトアミノフェンとアルコールでは肝障害が起こり、肝不全に陥ることもある。



サプリメントについて

サプリメント (supplement) とは、英語で「補助・補完するもの」という意味です。日常生活に必要な栄養素は食事で摂るのが基本ですが、健康維持のために、足りないものをサプリメントで補うことができます。しかし、アレルギーや、**医薬品との相互作用によっておこる健康障害**など、健康を目的とするサプリメントや健康食品で、かえって健康を害してしまうケースもめずらしくありません。買うとき、使用するときには、**成分内容をチェックし、摂る量やタイミング、飲み合わせに注意し**、リスクについても知っておきましょう。 利用する人の状態によっても、効果が大きく違ってきます。

● サプリメントと薬の違い

日本の法律では、人が口から摂取するものは、「医薬品」か「食品」のどちらかになります。使用される成分が、**厚生労働省の「食薬区分」**でどちらに分類されているかで決まります。サプリメントは「食品」に分類されているため、**病気の予防や治療を目的として製造・販売してはいけません**。「××に効く」「××の予防に」といった効能についての表現はできませんし、「いつ、どれだけ飲むか」という用法用量も記載できません。

	成分本質	効能効果	用法用量	成分表示	目的	効果	作用
医薬品	食薬区分による	明記できる	明確な規定	有効成分表示	単一目的	対症療法	抑制
サプリメント	食薬区分による	明記できない	適時/適量	原材料表示	多目的	原因対策	調整

なお、「**トクホ**」(特定保健用食品)とは、有効性や安全性について個別審査を受け、例えば「××が気になる方に」など、**特定の保健の用途表示をつけることを厚生労働省が許可した食品**です。「厚生労働省許可 特定保健用食品」のマークがついています。(効果や機能性が国に保証されているわけではありません。)





インターネットで調べる

薬について調べたいときに役立つサイトをご紹介します（順不同、2009年6月現在）。
なお、日本インターネット医療協議会：JIMA提唱の『[インターネット上の医療情報の利用の手引き](http://www.jima.or.jp/userguide1.html)』もご参照ください。
(<http://www.jima.or.jp/userguide1.html>)

・日本製薬工業協会（製薬協） <http://www.jpma.or.jp/>

新薬の研究開発で社会貢献をめざす日本製薬工業協会のページ。くすりの広範な情報から、新薬・治験情報、相談窓口の案内までを掲載。小中学生向けに、くすりについての正しい知識を楽しく身に付けられる、イラスト満載の学習教材も。

・上手なセルフ・メディケーション <http://www.jsmi.jp/>

日本OTC医薬品協会。「おくすり検索」では、症状や製品名、メーカー名などからOTC薬の情報が検索できる。他、「おくすりハンドブック」など。

・くすりのしおり <http://www.rad-ar.or.jp/siori/>

くすりの適正使用協議会が、医師・薬剤師が自由に情報を取り出し服薬指導に活用できるように作成したデータベース。約7,000種の医療用医薬品を検索できる。

・かんじゃさんの薬箱 <http://www.generic.gr.jp/>

日本ジェネリック医薬品協会が運営する「ジェネリック医薬品」の情報サイト。ジェネリック医薬品の検索や、利用医療機関の検索、Q&Aなど。

・おくすり110番 <http://www.jah.ne.jp/~kako/>

病院の薬がよくわかるサイト。病院の薬1万品目「ハイパー薬事典」、おくすり鑑定、妊娠とくすり、飲み合わせ、副作用解説、薬価の検索、添付文書改定情報、薬系サーチエンジン「Drug Yaboo!」、薬用植物図鑑など。

・漢方Q&A <http://www.sugitani.u-toyama.ac.jp/coe/jp/04education/qa/index.html>

富山大学による。漢方薬の効果・利用法、漢方薬の処方、漢方医学・中医学の解説が利用できる。





・医薬品医療機器情報提供ホームページ <http://www.info.pmda.go.jp/>

医薬品医療機器総合機構による。医薬品・医療機器等を安全に利用してもらうため、最新情報を提供。
「医薬品関連情報」、「医療機器関連情報」、「一般の皆様向け情報」「おくすり・医療機器相談」、「医薬品医療機器情報配信サービス」、
「医療用医薬品添付文書情報」、「医療機器添付文書情報」、「一般用医薬品添付文書情報」、「体外診断用医薬品添付文書情報」、
「患者向け医薬品ガイド・くすりのしおり」が利用できる。

・国立医薬品食品衛生研究所「医薬品・医療機器」 <http://www.nihs.go.jp/kanren/iyaku.html>

医薬品・医療機器に関する情報(医薬品安全性情報(国内・海外)、日本薬局方と関連情報、日本の薬事行政、医療機器情報)。

・医薬品情報データベース「iyaku Search」 <http://database.japic.or.jp/nw/index>

財団法人日本医薬情報センター(JAPIC)が提供する国内外の医薬品情報に関するデータベース。
「医薬文献情報」「学会演題情報」「医療用医薬品添付文書情報」「一般用医薬品添付文書情報」「臨床試験情報」「日本の新薬」「学会開催情報」「医薬品類似名検索」「効能効果の対応標準病名」以上のデータベースは、誰でも無料で検索可能。

このリストの解説部分は、下記資料を参考に作成いたしました。

- ・『知っておきたい薬のことくすりと上手につきあうためにー』(高知県医療薬務課, 2006)
- ・『薬事ハンドブック 2009』(じほう, 2009)
- ・NPO日本サプリメント協会／著『サプリメント健康バイブル 08ー09』(小学館, 2008)
- ・佐川賢一／共著 伊東俊雅／共著『薬局で買える女性の薬がよくわかる本』(法研, 2009)
- ・西崎統・井上忠夫／監修『早引き 薬事典 第3版』(ナツメ社, 2008)
- ・日本製薬工業協会(製薬協)ホームページ <http://www.jpma.or.jp/>



その1 薬の基礎知識・薬理学

	書名	著者／当時の所属	出版社	出版年	請求番号	主な対象	本の特徴／概要
1	薬理学 原書10版	カツツング／〔著〕柳澤輝行 ／監訳 飯野正光／監訳 丸山敬 ／監訳 三澤美和／監訳 【柳澤】東北大学大学院医学系研究科分子薬理学教授 【飯野】東京大学大学院医学系研究科細胞分子薬理学教授 【丸山】埼玉医科大学医学部薬理学教授 【三澤】星薬科大学薬理学教授	丸善	2009	491.5	医療系学生・医療関係者	・薬理学の教科課程順に基礎薬理学と臨床薬理学・臨床薬学を網羅 ・各章に「日本で入手可能な薬剤」「米国で入手可能な薬剤」を掲載 ・原書9版から削除された記述や図表で、訳者・監訳者が特に残しておいた方が読者の理解に大いに益すると思われる記述や図表については、あえて掲載されている アメリカおよび世界各国で、入門から応用まで明快かつ詳細な教科書として、医療現場の薬物治療マニュアルとして、学習者と医療人からの支持を集め、20年以上にわたり改訂を行ってきた名著の日本語版。
2	休み時間の薬理学 1テーマ10分	丸山 敬／著 埼玉医科大学医学部薬理学教室教授(医学博士)	講談社	2008	491.5	一般	・見開き完結で全44ステージ。各ステージ末に「POINT」があり、内容が数行にまとめられている。 ・Appendix:「薬を知るための生物学・生化学」 ・索引あり 風邪薬、消毒薬、予防接種。飲んだり、塗ったり、薬の形や作用は多様。小さな薬の大きな効き目はどんな仕組みか、見開き完結の薬理学入門書。薬の作用機序の基本がよくわかり、主要な薬物の知識が身につく1冊。
3	図解入門 よくわかる薬理学の基本としくみ	當瀬規嗣／著 札幌医科大学医学部医学部長 細胞生理学講座教授	秀和システム	2008	491.5	一般・学生	・付録「治療薬リスト」 ・索引あり からだと薬の関係を解き明かす薬理学が楽しくなる、やさしい図解入門書。薬学・医学・医療系の入門者、およびこれからこの分野を目指す学生を主な対象として、薬理学の考え方をわかりやすく解説。
4	薬は体に何をするか「あの薬」が効くしくみ…	矢沢サイエンスオフィス／編著	技術評論社	2006	491.5	一般	・薬種ごとに草分けした全14章。読み物風に解説。「抗うつ剤」「アルツハイマー病治療薬」「ステロイド剤」「頭痛薬」「抗生物質」「糖尿病治療薬」「抗がん剤」「てんかん治療薬」「インフルエンザ治療薬」「アレルギー治療薬(抗ヒスタミン剤)」「エイズ治療薬」「パーキンソン病治療薬」「ピル」「モルヒネ」 ・索引あり 私たちの生命や健康と不可分の関係にある薬。そんな薬はどうやって脳や心臓、血液、神経に作用するのか。なぜ、副作用が起こるのか。身近にある薬が効くしくみを、エピソードを交えてひもひも1冊。

	書名	著者／当時の所属	出版社	出版年	請求番号	主な対象	本の特徴／概要
5	ナースのための新しい薬の知識 薬の豆図鑑と索引が便利	栗原博之／著 NTT東日本関東病院医療安全管理室専任医療安全管理担当者(薬剤師)	誠文堂新光社	2009	491.5	医療現場に関わってまもない方	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に「薬の豆図鑑」があり、よく使用される薬について、「分類/薬効」「一般名(成分名)」「商品名」「製薬会社名」「効能」「用法・用量」「副作用」「禁忌」「薬の写真」を掲載 ・オールカラー ・難しい言葉などはコラムやQ&Aで別途解説 ・「一般名と商品名の対応表」:一般名から先発/後発品が引ける ・参考資料:「輸液の配合変化表(電解質輸液)」 ・索引あり <p>薬の基礎知識を、看護の視点でわかりやすく書き下ろしたナースのための本。よく使われる治療薬についても整理。看護現場によくあるQ&A、薬の知識をちょっとプラスするコラムも収録した。</p>
6	くすりの地図帳	伊賀 立二／監修 小滝 一／監修 沢田 康文／監修 【伊賀】日本病院薬剤師会会長・東京大学名誉教授 【小滝】国際医療福祉大学薬学部教授 【澤田】東京大学大学院情報学環・薬学系研究科教授	講談社	2007	491.5	一般・医療関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・オールカラー、図表多 ・巻末に「治療薬一覧」あり ・薬剤(医薬品)名索引あり <p>副作用を最小限にし、効果を最大に発揮させるには、薬を正しく理解し、正しく使うことが大切。本書では、薬理的知識を人体の構造や機能、病気の状態と密接に関連づけて解説。薬、体、病気の全てが一目でわかる本。</p>
7	メディックブック 第2部 患者さんによくわかる生活指導と薬・検査・手術の説明 改訂第3版	水島 裕／監修 東京慈恵会医科大学DDS研究所所長・聖マリアンナ医科大学名誉教授	金原出版	2006	492.3	一般・医療関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・各項目1～2ページ。図解入りで簡潔にまとめられ、コピーして患者さんへの説明用として配布できる様式になっている。 ・第2章「薬の飲み方・使い方」 ・第3章「市販薬の選び方」 ・索引あり <p>(表紙より) <ul style="list-style-type: none"> ・患者さんへの説明不足を補うために、第一線医師によって書かれた、わが国で初めての画期的な医療サービスです。コピーして患者さんに渡せます。 ・薬の飲み方、市販薬の選び方、各疾患の生活指導、検査法(治療的手技)、手術法の説明を5年ぶりに全面改訂 </p>

	書名	著者／当時の所属	出版社	出版年	請求番号	主な対象	本の特徴／概要
8	服薬指導のリスクマネジメント ヒヤリハット事例に学ぶ	沢田 康文／著 日経ドラッグ インフォメーション／編 東京大学大学院教授(薬学系 研究科)	日経BP社	2005	492.3	薬剤師	<ul style="list-style-type: none"> 患者への「説明・確認」の不備によって起きた服薬指導関連のミス・ヒヤリハットを10のカテゴリーに分類し、回避に必要な標準基礎知識を解説 1事例につき見開き完結:「リスク回避のためのポイント」「事件」「経緯」「最悪の事態」「原因分析」「回避法」「服薬指導例」「類例」を記載。 薬剤名索引あり <p>著者が全国の薬剤師から収集した「ヒヤリハット事例」の中から、服薬指導の内容に問題があった事例を123件紹介。これからの服薬指導業務に欠かせないリスクマネジメント法を解説する。</p>
9	服薬指導のリスクマネジメント ヒヤリハット事例に学ぶ 2	澤田康文／著 日経ドラッグ インフォメーション／編 東京大学大学院教授(情報学 環・薬学系研究科)	日経BP社	2008	492.3	薬剤師	<ul style="list-style-type: none"> 患者への「説明・確認」の不備によって起きた服薬指導関連のミス・ヒヤリハットを10のカテゴリーに分類し、回避に必要な標準基礎知識を解説 1事例につき見開き完結:「リスク回避のためのポイント」「事件」「経緯」「最悪の事態」「原因分析」「回避法」「服薬指導例」「類例」を記載。 薬剤名索引あり <p>不十分・不適切な服薬指導が原因で、実際に起きた「ヒヤリハット事例」と薬学的知識に基づき、ミスを回避するために必要な指導のコツや指導例を解説。これからの服薬指導に欠かせないリスクマネジメントの実践書。</p>
10	図解入門 よくわかるPOS薬歴 の基本と書き方	井手口直子／編・著 宮木智 子／編・著 【井手口】日本大学薬学部 ファーマシューティカルコミュ ニケーション学専任講師/ (株)新医療総研顧問 【宮木】(株)新医療総研取締 役、教育部長/ヘルスカウンセ リング学会認定ヘルスカウン セラ	秀和システ ム	2009	498.1	薬剤師・ 学生	<ul style="list-style-type: none"> 索引あり <p>薬歴管理の基本的な考え方から、患者の役に立つ実践的なケアまでを図解した入門書。的確な薬歴はどうすれば書けるか、患者から話をどう引き出すのかといった、「患者中心の医療」に活用される薬歴簿の書き方を解説。</p>
11	薬を買う前に読む本	岡田 正彦／著 新潟大学医学部教授(医学博 士)	日本評論社	2008	499.1	一般	<ul style="list-style-type: none"> 第四章「症状から選ぶ薬」では、日常的に見られる症状を上げ、それぞれ自己診断法と薬の選び方を紹介 付録「お勧め救急箱」: 家庭の救急箱に備える薬の例 「薬の成分名索引」「薬局で買える薬索引」あり <p>医師さえ知らない最新の研究に基づく、薬を正しく選び、安全に使う方法とは。いざという時に役立つ、症状別・薬の選び方も掲載。薬局に走る前に読む、親切でわかりやすいガイドブック。</p>

	書名	著者／当時の所属	出版社	出版年	請求番号	主な対象	本の特徴／概要
12	図解入門 よくわかる最新「薬」の基本としくみ 薬品が効く仕組みを図解で学ぶ！	ジェイ・シー・エヌ／編	秀和システム	2008	499.1	一般	・見開き完結で39項目、図解多 ・索引あり 病気を治す薬の作用、種別、用法などの仕組みを図解で学ぶ入門書。薬に関する一般的な基礎知識から、正しい飲み薬の服用法、漢方薬の基本的な仕組みまで、一般の読者が自分で薬の知識を得たい時に対応できる解説。
13	介護のための薬の知識 すぐに役立つ！	前鶴学／著 西村美智代／監修 【前鶴】特定非営利活動法人サポートハウス年輪監事／(財)日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 【西村】埼玉県認知症高齢者グループホーム協議会会長／社会福祉法人サン理事長(薬剤師)	介護労働安定センター	2009	499.1	介護職の方	・資料:「医行為について」(文部科学省通知) (目次より) 第1部 薬を知ろう 第2部 介護現場での薬の取扱い 第3部 高齢の方に多い病気とその薬 第4部 介護現場で今、何が起きているか
14	よくわかる処方せんの基本と読み方	柳川 忠二／監修 河野 博充／[ほか]著 【柳川】東邦大学薬学部教授 【河野】帝京大学医学部附属溝口病院薬剤部長	秀和システム	2007	499.6	一般・医療関係者	・各項目数ページでまとめている ・付録1「用語集」:基本的な用語の解説 ・付録2「処方せんと薬局に関するQ&A」:基本事項に関する12項目 ・付録3「全国主要薬剤師会連絡先一覧」 ・索引あり (目次より) 1 処方せんの読み方をおぼえよう！ 2 内服薬についておぼえよう！ 3 外用薬についておぼえよう！ 4 注射薬の処方せんをおぼえよう！ 5 妊婦・授乳婦への処方薬をおぼえよう！ 6 ジェネリック医薬品をおぼえよう！ 7 処方せんを一目見ればわかる疑義照会 8 性別、年齢、体重、薬歴を考慮した疑義照会 9 投薬時に患者さんとの会話から発見できる疑義 10 医薬分業からみた処方せんと疑義照会
15	病院調剤と医薬品管理の基本 調剤の流れ、院内製剤から医薬品情報の活用まで	阿部宏子／編 伊藤由紀／編 【阿部】医療法人永寿会恩方病院薬剤部 【伊藤】名古屋第二赤十字病院薬剤部	羊土社	2009	499.6	病院薬剤師・学生・指導薬剤師・薬学部教員	・オールカラー、図表・写真多 ・巻頭「実務実習事前学習方略」(チェック項目) ・各項目はじめに「実習のPoint」が数行でまとめられている ・索引あり (「編集の序」より) 調剤、注射調剤、院内製剤、医薬品管理、医薬品情報など病院薬剤業務のコアとなる重要な部分について学生・初学者にもわかりやすく丁寧に解説した。

その2 各薬の知識

	書名	著者／当時の所属	出版社	出版年	請求番号	主な対象	本の特徴／概要
1	ステロイド薬がわかる本 病気別	宮坂信之／編著 東京医科歯科大学大学院医 歯学総合研究科膠原病・リウ マチ内科学分野教授	法研	2008	492.3	医療関係 者・一般	<p>・3章構成:「ステロイド薬について知りましょう(基礎知識)」「ステロイド薬の副作用」「ステロイド薬を使う主な病気」/各章末にQ&Aがある</p> <p>・3章は病気ごとに症状等の説明・治療・ステロイド薬の使い方を記載</p> <p>第一線で活躍している専門医が、ステロイド薬を使う病気別に最新情報を詳しくわかりやすく解説。これからステロイド薬を使おうと思っている人、すでに使っている人の不安を解消する1冊。</p>
2	正しいステロイド剤の使い方 1 (内用剤編) 改訂版	宮坂信之／編 東京医科歯科大学大学院 膠原病・リウマチ内科学教授	医薬ジャー ナル社	2008	492.3	一般	<p>・大きな活字で各章数ページ</p> <p>(目次より)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)ステロイド内用剤とは？ 2)ステロイド内用剤はどのようにして効くのか？ 3)ステロイド内用剤はどのように使われるのか？ 4)ステロイド内用剤の副作用とその対処法 5)ステロイド内用剤を急にやめるとどうなる？ 6)ステロイド剤と他剤との相互作用とは？ 7)ステロイド剤と非ステロイド抗炎症薬(NSAID)との使い分けは？ 8)ステロイド剤と免疫抑制剤との使い分けは？ 9)生物学的製剤使用時のステロイド使用の注意点とは 10)妊婦に対するステロイド使用の注意点とは？ 11)小児に対するステロイド使用の注意点とは？ 12)高齢者に対するステロイド使用の注意点とは？

	書名	著者／当時の所属	出版社	出版年	請求番号	主な対象	本の特徴／概要
3	正しいステロイド剤の使い方 2 (外用剤編) 全面改訂版	塩原哲夫／編 杏林大学医学部皮膚科学教室教授	医薬ジャーナル社	2009	492.3	一般	<p>・大きな活字で各章数ページ</p> <p>(目次より)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)ステロイド外用剤と内服の違い 2)ステロイド外用剤はどのようにして生まれたか? 3)ステロイド外用剤の種類 4)ステロイド外用剤は、どのような病気にどうして効くのか? 5)アトピー性皮膚炎に対するステロイド外用剤の上手な使い方は? 6)ステロイド外用剤の使い方と止め方 7)ステロイド外用剤と他の外用剤との比較と使い分け 8)ステロイド外用剤の副作用とその対策 9)ステロイド外用剤を長く使う場合に気をつけることは? 10)ステロイド不信はいかに起こったか? 11)小児に対するステロイド外用剤の使い方 12)妊産婦に対するステロイド外用剤の使い方
4	高齢者ケア必携よく使われる薬 ハンドブック	播本 高志／編著 岩川 精吾／編著 【播本】ファーマ・ケア研究所 所長(薬剤師) 【岩川】神戸薬科大学教授/兵庫県薬剤師会理事	中央法規出版	2007	493.1	高齢者ケア提供者・学生・一般	<p>・第1部:高齢者ケアに役立つ「病気と薬の解説」…21の病気・症状からよく使われる薬を検索できる。各々について「どんな病気・症状に使われるの?」「薬物療法の考え方」「使われる薬の種類」「日頃注意しておきたいこと」「こんな副作用に気をつけよう」「薬の一覧表」</p> <p>・第2部:高齢者ケアに役立つ「薬1200」…主な商品名をアイウエオ順に記載。巻末索引で一般名からも検索可能。表形式で「商品名【会社名]」「一般名」「薬のタイプ」「錠型」「用法・用量」「期待する効果」「副作用」「注意したいこと」を記載。</p> <p>高齢者ケアの現場でよく遭遇する21の病気・症状、及びよく使われる薬についてやさしく解説。内服薬、外用薬などを中心に高齢者ケアに役立つ薬約1200について、ケア提供者が知っておきたい知識をまとめる。</p>
5	薬局で買える女性の薬がよくわかる本	佐川賢一／共著 伊東俊雅／共著 【佐川】東京女子医科大学大学病院薬剤部部長 【伊東】東京女子医科大学大学病院薬剤部	法研	2009	495.2	一般(女性)	<p>・巻頭カラー:薬のカタログ</p> <p>・計380品目を紹介。巻末に製剤名索引あり</p> <p>・症状ごとに解説と薬の紹介が読み物風に記載されている</p> <p>09年6月から大きく変わる、医師の処方箋なしで買えるOTC薬の販売方法。医薬品の新しい販売制度を理解し、上手にOTC薬を使いこなし、女性が自分で健康を守るための最新の薬情報を症状別に紹介する。</p>

	書名	著者／当時の所属	出版社	出版年	請求番号	主な対象	本の特徴／概要
6	薬局で買える子どもの薬がよくわかる本	佐川 賢一／著 東京女子医科大学病院薬剤部部長(医学博士)	法研	2007	499.1	一般	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭カラー:薬のカatalog/薬の基礎知識 ・巻末に製剤名索引あり ・症状ごとに解説と薬の紹介が読み物風に記載されている <p>本格的なセルフメディケーションの時代を迎え、薬の情報の重要性は高まるばかり。本書では薬局で買える子どもの薬の選び方、使い方をわかりやすく説明。子どもの病気を早く治し、症状を軽くする薬がすぐにわかる本。</p>
7	漢方薬の手引き 体質・症状・病気で選ぶ 増補改訂版	永田 勝太郎／監修 浜松医科大学医学部附属病院心療科内科科長/WHO心身医学・精神薬理学教授	小学館	2006	499.8	一般	<ul style="list-style-type: none"> ・4章構成「知っておきたい漢方の基礎知識」「症状・病気別漢方療法」「市販の漢方薬・生薬製剤」「医療用の漢方薬」 ・資料:漢方薬に配合されているおもな生薬 <p>1995年に発行された初版を、漢方薬がより日常的な存在となった現状にあわせて内容刷新。市販の漢方薬293種を加えて、さらに充実。漢方薬の正しい使用法や選び方についてわかりやすく解説した1冊。</p>
8	ジェネリック医薬品がわかる本 薬代を下げるための活用ガイド	日本ジェネリック研究会／編著	法研	2006	499.1	一般	<ul style="list-style-type: none"> ・第1部「ジェネリック医薬品を有効に活用するために」:基礎知識を読み物風にまとめる ・第2部:「主要ジェネリック医薬品リスト」:薬効別に一般薬剤名ごとにした一覧表。一般名と簡単な解説、「先発品名/メーカー」「剤形・規格」「薬価」「ジェネリック医薬品/メーカー」「薬価」「価格差」を記載 <p>ジェネリック医薬品の基礎知識をはじめ、その開発と承認の過程、効果や安全性の問題、どんな時にジェネリックを選ぶべきか、どんなメリットがあるのかを専門家が解説。主要ジェネリックの価格付き一覧表掲載。</p>
9	ジェネリック医薬品ポケットマニュアル 先発医薬品と比較できる '06-'07	緒方 宏泰／監修 伊東 明彦／監修 増原 慶壮／監修 【緒方】明治薬科大学薬剤学教授 【伊東】明治薬科大学治療評価学教授 【増原】聖マリアンナ医科大学病院薬剤部部長	メディカルレビュー社	2006	499.1	医療関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・16cmのポケットブックサイズ ・巻頭に「総説 ジェネリック医薬品の基礎知識」 ・表形式:主要な約220品目を一般名別に区切り、「先発・代表品名」「適応」「用法・用量」「警告」「副作用」「禁忌」を記載した後、ジェネリックの薬剤リストを50音配列(1品ごとに商品名、製薬販売会社名、剤形、規格、薬価、備考を記載) <p>(凡例より) 本書は、2006年8月辞典で薬価収載されている医薬品の中で、日常よく利用される、あるいは本邦における売上規模が大きい、主要な先発医薬品(以下、先発品)あるいは代表品を選び、同一有効成分の全ジェネリック医薬品(以下、ジェネリック)を掲載している。</p>

その3 サプリメント

	書名	著者／当時の所属	出版社	出版年	請求番号	主な対象	本の特徴／概要
1	サプリメント事典 第2版	蒲原 聖可／著 東京医科大学客員助教授・医学博士	平凡社	2007	498.5	一般	<ul style="list-style-type: none"> ・3部構成:「サプリメントの基礎知識」「症状・病気別サプリメント活用方法」「サプリメント事典」 ・「サプリメント事典」では、全123種につき「このサプリメントについて」「期待される効能」「作用メカニズム」「科学的根拠」「摂取方法」「注意事項」を記載。効果と安全性も3段階評価。 ・効能別索引あり <p>医師の執筆による信頼の実用事典、最新医学データに基づき改訂。厚生労働省の新しい「日本人の食事摂取基準」を反映。大幅増補、全123種のサプリメントを掲載。正しく効果的に利用するための詳細ガイド。</p>
2	絶対役立つ！サプリメント大事典 賢い摂り方から薬との相互作用まで	堀 美智子／編 医薬情報研究所(株)エス・アイ・シー医薬情報部門責任者(薬剤師)	保健同人社	2007	498.5	一般	<ul style="list-style-type: none"> ・全72種をQ&Aの読み物形式で紹介 <p>コンビニで手軽に買えるサプリでも、薬と一緒にのんではいけないこともある。ミネラルやアミノ酸、ダイエットサプリなど、人気のサプリ全72種類を取り上げ、知っておくべき知識を網羅。</p>
3	健食とサプリ特集 医師が教える「効果的なとり方」	西崎統／監修 西崎クリニック院長	東京スポーツ新聞社	2008	498.5	一般	<ul style="list-style-type: none"> ・気になる症状別にサプリメントを読み物風に紹介 <p>一般的に知られてる健康食品についての由来、基本的知識を整理。メタボリックシンドローム、動脈硬化、糖尿病など、気になる症状を食べて撃退しよう。健康食品を利用している人、これから利用したい人に最適。</p>

	書名	著者／当時の所属	出版社	出版年	請求番号	主な対象	本の特徴／概要
4	サプリメント健康バイブル 08-09	NPO日本サプリメント協会／ 著	小学館	2008	498.5	一般	<ul style="list-style-type: none"> ・第5章「身近な症状(悩み)」では、身近な30の症状についてメカニズムや予防・改善法を紹介 ・第6章「成分」では栄養素を基本とするサプリメントについて、第7章「機能性食品」では複合的な要素を持つ食品やハーブについて、網羅的に紹介。 ・巻末に「ラベルの見方」として、製品の信頼度の見分け方を紹介 ・第9章「商品紹介」では、NPO日本サプリメント協会の信頼基準12項目の評価を得た44商品をカラーで紹介
							<p>“危ないサプリ”“安心サプリ”とは。協会評価基準で選んだ「厳選サプリ44品」を掲載。また、注意したい「薬とサプリ」の飲み合わせ、成分、食品全175アイテムを詳細解説。</p>
5	サプリメントと医薬品の相互作用 診療マニュアル	蒲原 聖可／著	医学出版社	2006	491.5	医療従事者	<ul style="list-style-type: none"> ・エビデンスの質を検証した上で「相互作用・診療マニュアル」が作成されている ・各品につき、「名称」(和名、英名、一般的な原料、化学名など)「概要」「期待される効果」「相互作用に注意する医薬品」「臨床における対応」「相互作用のメカニズム」「参考文献」が記載されている <p>(「はじめに」より) 本書は、サプリメントと医薬品の相互作用に関する情報提供を目的としたハンドブックである。本邦において比較的利用されることの多いサプリメントを選び、医薬品との相互作用に関連する科学的根拠を解説した。</p>

その4 医薬品業界

	書名	著者／当時の所属	出版社	出版年	請求番号	主な対象	本の特徴／概要
1	医薬品業界2010年の衝撃	酒井文義／著 クレディ・スイス証券アナリスト	かんき出版	2009	499	医薬品企業経営者・関連業界勤務の方・一般・学生	<ul style="list-style-type: none"> ・図表あり ・第6章内に、主要14社の中期経営計画が掲載されている <p>(寛開ぎより) 2010年を境に大手主力品の特許切れが相次ぐ医薬品業界。厚生労働省によるジェネリック普及推進、大手の新薬開発の遅れ、薬価改正・診療報酬改訂、収束したとはいえ予断を許せない業界再編…。医薬品部門アナリストの第一人者が「2010年問題」から業界の行方を解き明かす。</p>
2	医薬品業界2010年の攻防 主力薬品の特許切れをめぐる業界の動きを先読む	溝上 幸伸／著 フリージャーナリスト	ぱる出版	2007	499	一般	<ul style="list-style-type: none"> ・7章構成：特許切れラッシュ「2010年問題」の構図／新薬VSジェネリック「行政の思惑」／新薬メーカーの危機感と特許切れ対策／大再編へ胎動するジェネリック各社／外資の襲来と海外進出・スリム化戦略／次の業界再編の核になる企業は？／異業種・兼業メーカーを巻き込んだ再編の動き <p>相次ぐ大型薬品の特許切れをめぐる「2010年危機」のウラ・オモテを主題に、ジェネリック医薬品の拡大に絡む再編、新薬を開発できない新薬メーカーの去就などの動きを独自の視点から追った最新版。</p>
3	図解 医薬品業界ハンドブック	医薬経済社編集部／著	東洋経済新報社	2008	499	関連業界勤務の方・一般	<ul style="list-style-type: none"> ・図表あり ・巻末に「データ編」として関連統計や「注目企業新薬開発状況(2008年1月現在)」の記載あり <p>医薬品業界は激変の時代を迎えている。現在行われている改革全体の流れに加え、診療報酬や薬価の仕組み、企業のメガ再編、業界の業務内容などを解説。クスリを取り巻く世界の動きがよくわかる1冊。</p>
4	薬局のしくみ イラスト図解	井手口 直子／編著 木村 憲洋／編著 【井手口】(株)新医療総研代表取締役所長 【木村】医療法人杏林会・今井病院企画情報室室長	日本実業出版社	2006	499	一般・学生・関連業界勤務の方	<ul style="list-style-type: none"> ・見開き完結のSection、図表多 <p>薬局で働く人々の舞台裏や経営のしくみから、病院との関係や製薬会社・薬品卸業者との取引事情、薬の開発や流通・価格決定のしくみまで、薬局の全てをやさしくイラスト図解。手軽に読める薬局の入門書。</p>

	書名	著者／当時の所属	出版社	出版年	請求番号	主な対象	本の特徴／概要
5	ドラッグストアの常識 基礎編	宗像守／著 NRKグループ代表	商業界	2008	499	関連業界 勤務の方・就職 を希望する 学生	・新書サイズ、図表あり ドラッグストアに携わる人に必須の「常識」をわかりやすく解説した必携書、基礎編。ドラッグストアの定義をはじめ、覚えておきたい専門用語、法律、計数まで、業界の基礎知識を網羅。
6	ドラッグストアの常識 実務編	宗像守／著 NRKグループ代表	商業界	2008	499	一般・ド ラッグス ストア就 職を希 望する 学生	・新書サイズ、図表あり ドラッグストアに携わる人に必須の「常識」をわかりやすく解説した必携書、実務編。ドラッグストアのマーチャンダイジング、売場づくり、陳列と演出、販売促進、オペレーション、店舗開発の6つの項目で構成。

その5 創薬論・薬育

	書名	著者／当時の所属	出版社	出版年	請求番号	主な対象	本の特徴／概要
1	創薬論 プロセスと薬事制度	村川 武雄／著 ----- 医薬品開発・薬事コンサルタント/けいはんな文化学術協会理事(医学博士)	京都大学学術出版会	2007	499.1	学生・医薬品開発関係者・医療従事者	・巻末に参考文献・インターネット上の情報源・国際開発で多用される用語(英和対照)の紹介あり ・索引あり ----- 創薬に最も重要な有効性・安全性・品質の確保のためのプロセスと、それを規制する薬事制度を、日・米および欧州連合の全てについて体系的に比較解説。知的財産権、医療制度についても医薬品開発の視点から詳述。
2	薬を育てる薬を学ぶ	沢田 康文／著 ----- 東京大学大学院情報学環・薬学系研究科教授	東京大学出版会	2007	499.1	一般・医療関係者	・付録:「本書における処方せんの見方」「OTJ医薬品について」「本文中に出てきた医薬品の商品名と一般名、効能の一覧表」 ----- 使いやすく、効き目もしっかり、副作用も少ない。そんな夢の薬をつくるにはどうすればよいか。まず、一般市民も薬を学び、そして薬を育てる意識を持つこと。薬の専門家が贈る、新しい薬との付き合い方の提案。
3	世界で一番売れている薬	山内 喜美子／著 ----- フリーライター	小学館	2007	499.1	一般	・高脂血症治療薬「スタチン」誕生についてのノンフィクション ----- 世界で一番売れている薬であり、世界で3000万人が飲んでいるといわれる高脂血症治療薬「スタチン」。その開発秘話と、開発者である遠藤章博士の半生記。第13回小学館ノンフィクション大賞優秀作受賞作。

その6 薬の事典

	書名	著者／当時の所属	出版社	出版年	請求番号	主な対象	本の特徴／概要
1	日経ヘルスサプリメント事典 最新のサプリ、ハーブ、漢方、食品成分、トクホがわかる 2008年版	日経ヘルス／編	日経BP社	2007	R/498.5	一般	<ul style="list-style-type: none"> ・サプリメント・健康食品、食材・食品・飲料、漢方、アロマセラピー、美容などに利用されている成分や素材を中心に、健康雑誌『日経ヘルス』の取材活動を元に掲載 ・英語名や学名、略語も表記 ・各項目の「関連語」も記載 ・特定保健用食品に関しては、よく利用されているものを中心に一部商品に記載 ・付録:「効果が高まるサプリメントの正しいとり方」「漢方薬の基礎知識」「日本人の食事摂取基準」 ・悩み・症状別の逆引き索引「病気・不調編」「美容編」 ・サプリメント用語の索引「あいうえお順」「アルファベット順」「略語順」 <p>健康雑誌「日経ヘルス」が総力取材。サプリメント、機能性食品、健康食品、化粧品など、健康や美容に役立つ成分や関連用語を網羅。1000語超の最新・注目の成分を収載。女性に人気の漢方の解説を追加。</p>
2	薬事ハンドブック 2009		じほう	2009	R/499.1	一般・関連業界勤務の方	<ul style="list-style-type: none"> ・読み物形式で、業界の動向が分かる ・資料編は、「主な製薬企業再編図」「2008年新たに承認された有効成分」「医薬品業界の動き一覧」「関係団体・機関名」など <p>(目次より)</p> <p>第Ⅰ章 医療編 第Ⅱ章 医薬編 第Ⅲ章 関連業界編 第Ⅳ章 資料編</p>

3	<p>今日の治療薬 解説と便覧 2008</p>	<p>水島 裕／編集 浦部 晶夫 ／編集協力・執筆 島田 和 幸／編集協力・執筆 川合 真一／編集協力・執筆 二木 芳人／〔ほか〕執筆</p> <hr/> <p>【水島】聖マリアンナ医科大学 名誉教授</p>	南江堂	2008	R/499.1	医療関係 者	<ul style="list-style-type: none"> ・薬種別全69章 ・各章のはじめに概説。「服薬指導のポイント」や「医薬品ヒヤリハット」の記載あり ・本文は表形式で各薬につき「中分類名」「一般名」「先発・代表薬剤の商品名」「ジェネリック医薬品」「会社名」「代表的薬価」「最近2年間の新薬・新剤形の薬価基準収載年月」「組織・剤形・容量」「用量」「備考」等を詳細に記載。 ・付録あり:「重大な副作用の症状」など ・識別コード(薬剤本体コード)一覧表あり ・便覧薬剤索引・欧文索引・解説事項索引あり <hr/> <p>(「2008年度版(改訂第30版)序文」より) 2008年度版では編集体制を大幅に変更し、執筆者が増えた。解説は、①各領域の専門家により新しい実践的な内容に改訂し、「服薬指導のポイント」「医薬品ヒヤリハット」など患者指導や調剤時の注意点がわかるようにした。②61章「腎疾患用剤」の章を新設し、③65章「歯科・口腔用剤」にも解説を追加している。(中略)④添付文書には記載されていない小児の用量を大幅に追加し、⑤授乳婦への危険度も新設した。また、⑥下線や波線により副作用の頻度がわかるように工夫した。⑦適応外使用に関する情報には新たに「適外」マークをつけ、⑧商品名に含まれる剤形や用量を太字にするなど、細かな配慮をしている。</p>
---	------------------------------	--	-----	------	---------	-----------	--

4	早引き 薬事典 第3版	西崎統／監修 井上忠夫／監修	ナツメ社	2008	R/499.1	一般・医療関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭p.1～32に平易なカラー解説あり:「薬が効くしくみ」「体内に入った薬の流れ」「経口薬の流れ」「薬の濃度と効き目」「薬を服用するタイミング」「薬の副作用」「薬の相互作用」「薬と食べ物の相互作用」「薬の剤形」など ・第1章「基本の薬」: 現在医師向けに市販される薬剤のうち、使用頻度が高い薬剤、重要な薬剤など700品目を選択、50音配列。各薬につき、「臨床用途・薬効別分類」「商品名」「欧文商品名」「剤型」「適応疾患・薬理作用／(劇・毒・麻)指定」「製薬会社」「一般名／欧文一般名／愛称」「適応」「作用」「用法・用量」「使用上の注意」「併用注意」「副作用」「保存」「他の商品名」を平易に記載。 ・第2章「薬剤の種類と解説」: 薬理作用と薬効を基準として臨床用途別に分類、薬剤の種類・特徴などを読み物形式で解説 ・索引あり
		【西崎】西崎クリニック院長 【井上】国際医療福祉大学大学院教授/国際医療福祉大学三田病院薬剤部長	臨床薬として不可欠な約700品目を選び、製剤の適応、作用、用法・用量などを、医療の現場で素早く、効率よく活用できるようにまとめた薬剤ミニ事典。薬剤の種類や特徴の解説、薬の基礎知識のカラー図解も収録。				
5	薬の事典 普及版	宮崎 利夫／編集 朝長 文弥／編集	朝倉書店	2007	R/499.1	医療関係者・一般	<ul style="list-style-type: none"> ・「総論に約40%、各論に約60%」を割いたとある ・「総論」は読み物形式で、薬の成り立ちから薬事行政、薬の見分け方まで幅広く解説。「薬を知るための情報センター—覧」あり ・「各論」は薬を大きく20のジャンルに分け、ジャンル・各薬の概説を付し、個々の薬については「作用・特徴」「適応」「禁忌」「副作用」「注意」「相互作用」「商品名」「同効薬」を記載。 ・索引あり
		【宮崎】東京薬科大学理事長・同大学名誉教授(薬学博士) 【朝長】北里大学名誉教授(医学博士)	総論では薬の歴史から区分、働き、安全性、見分け方など、各論では各疾患別の薬の種類、注意すべき副作用、効能などを解説する。薬学・医療関係者だけでなく、広く一般の人々にも理解できる、薬の総合事典。				

6	日本医薬品集 2007-08年版 一般薬	日本医薬品集フォーラム／監修 じほう／編集	じほう	2006	R/499.1	医療関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・製品を薬効群に分類し、群ごとに50音配列。索引あり ・個々の薬につき、「製品名」「愛称」「会社名」「規制等」「剤形・成分」「効能・効果」「用法・用量」「包装等」「注意」「備考」を記載 ・付録に「製造販売承認基準・使用上の注意」「一般用医薬品成分の相対的リスク分類」「会社住所録」「薬剤師が紹介する消費者くすり相談窓口一覧」 <p>(「発刊のことば」より)</p> <p>本書「日本医薬品 一般薬 2007-2008年版」は、創業以来、医学・薬学界に向けて医薬品情報を提供してきた株式会社じほうが、「日本医薬品 医療薬」の姉妹編として編集に取り組んだ、一般用医薬品の添付文書情報集である。今回の書籍では、2006年3月に行った製薬企業への調査に基づいた約12,000品目の最新情報を網羅している。</p>
7	今日のジェネリック医薬品	水島 裕／監修 北村 正樹 ／編集 「今日の治療薬」編集室／編集	南江堂	2006	R/499.1	医療関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・表形式:「先発医薬品名」「ジェネリック医薬品名」「剤形・規格単位」「薬価」「会社名」 ・「先発品と適応症の異なる主なジェネリック医薬品一覧」あり ・附録に「ジェネリック医薬品申請と承認関連資料」「主な医薬品メーカー一覧」あり ・索引あり <p>(凡例より)</p> <p>・本書は、保険診療に用いられる医療用医薬品の中で、先発医薬品に該当するジェネリック医薬品を検索することができます。また、該当するジェネリック医薬品のない先発医薬品や、先発医薬品のないジェネリック医薬品も一目で分かるよう、表示してあります。</p> <p>・本書の記載内容は、2006年8月現在、厚生労働省がホームページ上で公表しているジェネリック医薬品の情報と、各製薬会社の添付文書をもとに作成しています。</p>
8	和漢薬の事典 新装版	富山医科薬科大学和漢薬研究所／編集 難波 恒雄／監修	朝倉書店	2007	R/499.8	医療関係者・一般	<ul style="list-style-type: none"> ・一般用医薬品として承認されている漢方210処方など、計300品目を掲載 ・個々の生薬につき、「出典」「基源」「産地」「成分」「薬理作用」「臨床応用」「処方例」「用法・用量」「同類生薬」を掲載。植物画あり。 ・和文/欧文索引あり <p>和漢薬は民間や医療の現場でも広く用いられているにも関わらず、誤解が多い分野。本書は、和漢薬を有効に、かつ安全に処方・服用してもらうための、薬剤師を中心とした和漢薬に興味を有する人に向けた薬種別の事典。</p>



●●●高知県立図書館の健康情報サービス●●●

「薬を知ろう！ もっと元気にセルフメディケーション」

2009年6月 初版

高知県立図書館 利用サービスチーム／編

〒780-0850 高知市丸ノ内1-1-10

TEL.088-872-6307 FAX.088-872-6479

<http://www.pref.kochi.lg.jp/~lib/>

